

2019.9.29 北都新聞

名寄市議会

17年度決算を認定

病院の災害協定を検討

【名寄】市議会決算審査特別委員会（東川孝義委員長、全議員構成）は28日までにするべの審査を終え、2017年度市各会計決算を原案通り認定すると結審した。

28日、病院事業会計の審査で東千春委員（市政クラブ）は、地域医療構想の25年の必要病床数と現状との差と答弁。東病院の将来

の考え方、東病院の将来展望を質問。和泉裕一院長は「病床の数が一人歩きしているが、達成しなければならぬ数ではない」と答えた。

佐久間誠委員（市民連合・凜風会）は、外来待ち時間の短縮に向け、クレジットカードによる会計の後払い、ポケットベルなどを活用した通知サービスなど、具体的な取り組みを求めた。

岡村弘重事務部長は「検討という段階に至っていないが、自動精算機、クレジット決済など資料を集めている。クレジット決済は手数料が発生し、黒字化が前提になる」と答えた。

佐藤靖委員（市民連合・凜風会）は、6日の胆振東部地震による停電対応、患者影響、災害対策の充実を求めた。

桜田孝臣事務部総務課長は「停電後、非常発電稼働し、6日は通常外来を休止した。予約689人中、未受診は50%程度。1週間は電力を維持できるが、今回のように物流が止まると、診療材料、食材確保が難しい。道災害拠点病院として独自に食料、燃料の支援ができるよう院内で検討する」と答えた。（古永雅人）